

# 合同教育研究会議（9月9日開催）議事概要

## 1 開催日時

令和2年9月9日（水）13:00～14:47

## 2 場所

本部棟3階 特別会議室

## 3 出席者

鈴木学長、石堂副学長兼高等教育推進センター長、狩野副学長兼研究・地域連携本部長、堀江副学長兼事務局長、猪股教育支援本部長、似鳥学生支援本部長、橋本企画本部長、劉国際教育研究部長、福島看護学部長、高橋社会福祉学部長、亀田ソフトウェア情報学部長、高嶋総合政策学部長、菊池盛岡短期大学部長、松田宮古短期大学部長、菅原委員（学外委員：岩手大学名誉教授）、長谷川委員（学外委員：東北大学未来科学技術共同研究センター長）

（事務局）鈴木事務局次長兼総務室長、関屋教育支援室長、鎌田学生支援室長、藤澤研究・地域連携室長、藤村企画室長、高橋宮古事務局長、荒澤主幹、鈴木主幹、岩淵主事

## 4 会議の概要

### 議事録確認

前回会議7月8日の議事録（議事概要）については、原案のとおり了承された。

### 審議事項

なし

### 協議事項

#### (1) 今後見込まれる景気低迷に対応した就職支援の取組について（資料No.1）

似鳥本部長から資料に基づき、今後見込まれる景気低迷に対応した就職支援について、その方向性及び取組の案の説明があり、協議の結果、原案のとおり承認された。

委員から、就職支援の取組を実効性のあるものにするには、少人数教育を行っている本学では、クラス担任、ゼミ、または研究室のレベルで取り組む必要があることから、各学部において学生の指導をお願いしたいとの発言があった。

鈴木学長から、実際に学生と接するのは学部の先生方なので、就職支援の様々な取組がどれだけ学生に伝わっているのか、各学部でチェックして進めてもらいたいとの発言があった。

委員から、7月から現時点までの期間において、現3年生の就活状況に改善の兆候は見られるかとの質疑があり、これに対し、鎌田室長から、就職支援サイト登録についてポスター掲示や3年生向けのメールマガジン等で周知してきたが、利用率は伸びてはいるが芳しくないので、引き続き取組を工夫すること、また、後期に各学部で就職ガイダンスを設けていただき、開催する場合は、学生支援本部から説明要員を派遣

するので相談願いたいとのとの回答があった。

委員から、本部として学生の実態を把握し、各学部で情報共有し連携することも考えていただきたいとの発言があった。

#### 報告事項（口頭報告）

**(1) 令和2年度前期遠隔授業に関する学生アンケートの実施について（資料No.2）**

猪股本部長から資料に基づき、令和2年度の前期遠隔授業に関する学生アンケートを実施することについて報告があった。

**(2) 令和2年度全学FD・SDプログラム第1回高等教育セミナー開催要項について（資料No.3）**

猪股本部長から資料に基づき、令和2年度全学FD・SDプログラム第1回高等教育セミナーの開催要領について報告があった。

学長から、FD・SDがどのくらい教員に伝わっているかを確認するために、APRIN（エイプリン）のような確認クイズを検討してはどうかとの発言があった。

**(3) 秋の入試オンライン相談会・CAなんでも相談会の開催について（資料No.4）**

猪股本部長から資料に基づき、2020年大学祭の中止に伴い、例年同時開催している秋のオープンキャンパスでの「学部合同入試相談会」の代替事業として、「秋の入試オンライン相談会・CAなんでも相談会」を開催することについて報告があった。

**(4) 数理・データサイエンスコンソーシアム公・私立大学会員校への参画について（資料No.5）**

猪股本部長から資料に基づき、「数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム」の公・私立大学会員校（連携校）への参画が承認されたことについて報告があった。

学長から、この取組については、岩手県のコンソーシアムにも広げていく必要があるのではないかと発言があった。

**(5) 国費外国人留学生の受入に関する対応方針について（資料No.6）**

猪股本部長から資料に基づき、国費外国人留学生の受入に関する対応方針について報告があった

委員から、ソフトウェア情報学部には大連の特別聴講生がいるが、国費以外の留学生の状況がわかれば教えてもらいたいとの質疑があり、これに対し、関屋室長から、国費以外の留学生については、現在、入国管理局の手続きが進んでおらず、ビザが下りていない状況だが、この国費外国人留学生の動きとともに、徐々に動き出すのではないかと考えているとの回答があった。

鈴木学長から、PCR検査の結果は3日から4日でわかるにも関わらず、国費外国人留学生は入国後2週間も待機する必要があるのかとの質疑があり、これに対し、関屋室長から、国からの指示では、入国後のPCR検査の結果に関わらず空港周辺で待機し、検査結果が陽性の場合は、さらに別の指示が出されることとなっているとの回答があった。

鈴木学長から、岩手県内の大学には他にも国費外国人留学生がいるので、岩手県内で一緒に移動させた方がいいのではないかと意見があり、これに対し、関屋室長から、空港から盛岡駅までのコーディネートは文部科学省が東京の旅行会社に委託して

手配していること、また、一緒に移動する各留学生がスケジュールを合わせる必要があることから、難しいのではないかとの回答があった。

委員から、本学の国費外国人留学生はどこの国から来るのかとの質疑があり、これに対し、関屋室長から、2名を予定しており、アメリカとインドネシアであるとの回答があった。

**(6) 令和2年度岩手県立大学の就職内定状況（8月末現在）について（資料No.7）**

似鳥本部長から資料に基づき、8月末現在の岩手県立大学の就職内定状況について報告があった。

委員から、宮古短期大学部の内定率が少し落ちているようだが原因は何かあるかとの質疑があり、これに対し、似鳥本部長から、宮古短期大学部は毎年度時期により上下があり、現時点で特に原因を考える状況にはなく、一方で、進学希望者が39名と多く、今週初めの本学の編入試験の結果によっては、さらに就職希望者の母数が増え、数的にはもっと下がる可能性が出てくるとの回答があった。

鈴木学長から、昨年の宮古短期大学部の内定率はよく、盛岡短期大学部は悪かったものが、今年度は平均的になっているのではないかとの質疑があり、これに対し、似鳥本部長から、短期大学部は科目専攻の人数が少ないので上下することが原因であるとの回答があった。また、売り手市場といっても最終的な採用は買い手である企業が決定することであり、学生は緻密な準備と意欲的な就職活動を進めることが大事であるとの発言があった。

**(7) 北いわて・三陸地域活性化推進研究の採択課題の決定及び追加公募について（資料No.8）**

狩野本部長から資料に基づき、北いわて・三陸地域活性化推進研究の採択課題を決定し、また、追加公募をすることについて報告があった。

**(8) 東北 I L C 事業推進センターへの本学の参加について（資料No.9）**

狩野本部長から資料に基づき、東北 I L C 準備室の後継組織である東北 I L C 事業推進センターに、本学も会員として参加することについて報告があった。

**(9) 令和3年度科学研究費助成事業公募に係る学内説明会の開催について（資料No.10）**

狩野本部長から資料に基づき、令和3年度の科学研究費助成事業公募に係る教職員向けの学内説明会を開催することについて報告があった。

鈴木学長から、岩手大学や東北大学と比較すると申請は少ないが、本学では「まずは申請」ということを教員には取り組んでもらいたいとの発言があった。

**(10) J S T 「共創の場形成支援プログラム」への応募について（資料No.11）**

狩野本部長から資料に基づき、本年度創設された J S T (科学技術振興機構) の「共創の場形成支援プログラム」に代表機関として応募したこと及びその概要について報告があった。

長谷川委員から、概要を拝見した限りでは、この大学の特徴をうまく踏まえて壮大な計画になっていると感じている。スタート時、研究費は年間2500万円と少ないが、10年計画で資料を提出させられているので、当初から大きな構想を前提に始めるように指示される可能性がある。その点でこの大学としては非常に詰められた内容になっているので問題なく進められそうで、良いのではないかと。倍率は非常に高いらしいが、万が一選考に漏れた場合でも企業群から期待されるのではないかと思うので、企

業群にも少し支援をもらいながら、少しずつ進めていくことも考えられる。おそらく来年も再来年も機会があると思うので、具体的に進められている状態で少し練り直して挑戦し続けることもよいと感じているとの発言があった。

(11) 学長メッセージの実施について（資料No.12）

橋本本部長から資料に基づき、新型コロナウイルス感染症防止のため延期していた教職員に対する学長メッセージを、日程を改めて実施することについて報告があった。

(12) 令和元事業年度業務実績に関する県評価委員会の評価結果について（資料No.13）

橋本本部長から資料に基づき、県地方独立行政法人評価委員会に提出していた「令和元事業年度に係る業務実績」の評価結果について報告があった。

(13) 東北 ILC 事業推進センター事務局の設置に併せたアイーナキャンパスの配置見直しについて（資料No.14）

鈴木事務局次長から資料に基づき、東北 ILC 事業推進センター事務局の設置に併せてアイーナキャンパスの配置を見直すことについて報告があった。

委員から、看護学部がアイーナキャンパスで実施する事業で使用する物品の置き場所の確保について要望があり、これに対し、鈴木事務局次長から、具体的に相談してほしいとの回答があった。

(14) サーモグラフィカメラを活用した検温体制の強化について（資料No.15）

鈴木事務局次長から資料に基づき、サーモグラフィカメラを活用した検温体制を強化することについて報告があった。

鈴木学長から、増設が7台というのはなぜかとの質疑があり、これに対し、鈴木事務局次長から、予算の制約があり7台としたが、今後は運用と予算の状況をみながら必要に応じて体制の強化を図っていくとの回答があった。

委員から、学部棟のどちら側に配置するかとの質疑があり、これに対し、荒澤主幹から、風除室側を考えているが、学部事務に管理をお願いする都合上、設置場所は相談しながら検討するとの回答があった。また、資料に短大部の設置に係る記載が抜けているが、短大部にも設置するとの補足説明があった。

鈴木学長から、資料の番号は何を意味するかとの質疑があり、これに対し、荒澤主幹から、この番号は予算上の優先順位を示したものだが、予算内に収まったことから、7台増設するとの回答があった。

(15) 令和2年度 防災訓練の実施方針について（資料No.16）

鈴木事務局次長から資料に基づき、令和2年度の防災訓練の実施方針について報告があった。

(16) 労働基準監督署による是正勧告等に対する本学の対応について（資料No.17）

鈴木事務局次長から資料に基づき、労働基準監督署による是正勧告等の内容及びそれに対する本学の対応について報告があった。

委員から、今年は遠隔授業の実施もあり、9月の最終週しか休めないなかで、そこに全学の様々な行事が入ったため、行事への出席率が下がることが予想されるが、そのことは話題にしないしてほしいとの発言があった。

鈴木学長から、東北大学ではタイムカードを導入しているかとの質疑があり、これに対し、委員から、東北大学は自己申告であるとの回答があった。

委員から、タイムカードについては、様々な問題があり、本学では暫定的に導入しているものという認識であるが、鈴木事務局次長の認識はどうかとの質疑があり、これに対し、鈴木事務局次長から、かなり議論があったということは承知しているが、サービス上の労働時間にかかる健康障害防止のための把握ツールとして導入し、試行が続いているという認識であるとの回答があった。

委員から、タイムカードには、学部長が教員の時間をどう管理するかという課題があり、今年は感染症の関係で教員が学外に行く機会が減って問題は顕在化していないが、平時に戻り教員の学外での活動が増えてくると、未解決の問題が深刻化してくることを留意する方がよいとの発言があった。

鈴木学長から、労働基準監督署員がタイムカードと裁量労働制をどう考えているのか聞きたいとの発言があった。

#### 報告事項（資料報告）

- (1) 令和2年度秋季学位記授与式実施概要（資料No.18）
- (2) 令和3年度編入学試験及び大学院入試出願状況について（資料No.19）
- (3) 岩手県立大学と盛岡ターミナルビル株式会社との包括的連携協定の締結について（資料No.20）
- (4) 令和2年度全学競争研究費の採択結果について（資料No.21）

#### その他

委員から、9月30日の学長メッセージ当日は、看護学部では臨時実習の対応のために、学内に教員が半数しかいないことから、一定期間閲覧できる対応をできないかとの質疑があり、これに対し、橋本本部長から、学長メッセージは録画することとしているが、可能な限り参加するよう周知願いたいとの回答があった。

委員から、9月8日午後に滝沢キャンパス内のトイレが一時使用不能になった件を踏まえ、今後同じようなことが起こった場合の教員への周知の改善について要望があり、鈴木事務局次長から、原因の究明と対策に引き続き取り組むとの回答があった。

猪股本部長から、本会議終了後開催される入試検討会議における追試験の日程の確定や大学祭の中止を反映させた学年暦の配付予定の説明と、対面授業の準備の依頼があり、これに続き、橋本本部長から、今後、遠隔授業になる可能性も考慮し、前期に導入した Google Classroom や Google Meet の機能一式は、後期も同じように使えるように準備を進めているとの説明があった。

委員から、後期の授業に関して、授業開始の2週間程度前に何らかのアナウンスをした方がよいと思うが、何か考えはあるかとの質疑があり、これに対し、関屋室長から、後期が始まる前にアナウンスする必要があると考えているが、現在、県外への移動規制はないので、必ずしも2週間前にアナウンスする必要はないのではないかと回答があった。

委員から、2週間前までという根拠はないが、1週間前では直前過ぎるのではないかと意見があり、これに発言に対し、関屋室長から、連休の前がよいと考えているとの回答

があった。

委員から、学生の学内の Wi-Fi の通信状況について、スマートフォンはよくつながるが、パソコンはつながりにくく、学部内での改善の取組を検討したいため、全学のシステム更新の方針について情報提供願うとの要望があり、これに対し、藤村室長から、学内情報システムに関しては、第 5 次整備計画の中で進めており、Wi-Fi 環境については、教育に使う限りにおいて間に合うものという認識であり、アクセスポイントについては、今後増強する計画もあるので、そのような情報を提供し意見をいただきたいとの回答があった。